

校訓  
 明 信 覇  
 朗 念 気



第6号

発行 県立富士宮北高等学校同窓会  
 北嶺会  
 静岡県富士宮市大宮2300 (北高内)  
 電話 (0544) 27-2533 (代)  
 編集 北嶺会 広報部  
 部長 井出元一



### その道

#### 一筋に

##### 人物往来

茨城大学教授理学博士

山本勝巳

(第一回卒)



大宮工業学校応用化学科の第一回生は五十名のささやかなクラスだった。その中から二人の「博士」が生れた。  
 その一人が山本勝巳氏である。彼の愛称は「権兵衛」

さて、その彼が母校を巣立った後のコースをたどってみよう。  
 昭和十八年浜松高工(現静大)応用化学入学。更に東北帝大理学部化学教室入学。三十四年理学博士。三十六年東北大学助教授。四十年茨城大学理学部教授。四十六年文部省在外研究員として欧米に出張。五十二年茨城大学評議員。五十四年茨城大学学生部長というのが経歴のあら筋である。正にエリートコースそのものである。  
 これは恵まれた一人の学者の履歴だと見過してはならない、と言うのは彼の生きざまが、母校の応用化学を起点として、分析化学の道一筋に今日迄生き続けて来た事である。  
 即ち学位論文は「微量元素の定量法に関する研究」

### 世界平和を

#### 願いつつ

##### 人物往来

広島大学助教授医学博士

深沢嘉一

(第三回卒)



戦火のまっただ中での中学生生活でした。好むと好まざるにかかわらず握らされた木銃であり、向き不向きを問わず追いやられた軍需工場への就業でした。そんな中にも母校を愛し文武両道に秀でた男がいました。それが彼「深沢嘉一」氏です。  
 いまわしい灰色の青春時

長崎大学医学部の講師となつた三十六年夏には米國イリノイ大学、バンスайд研究所に留学の為渡米、三年後には請われて同研究所の専任研究員となつたが四十年八月に帰国、同年九月には広島大学講師として同大医学部附属病院(外科)に入り、二年後の四月には助教授となる(原爆放射能医学研究所)。更に同年六月より四十四年四月まで広島大学原爆放射能医学研究所附属原爆医学標本センター長を併任するなどその活躍ぶりはめざましく、第五回国際放射線学会出席のため四十九年十月米國に渡り、五十三年十月にはアールゼンチン・ブエノスアイレスで行われた第十二回国際癌学会の為にカナダ・南北アメリカと国際的な幅広い動きを示しています。実業家は多いが学者は少ないと言われている同窓生の中にあって誇りに思える人の一人だと思ひます。  
 現在、広島大学放射線誘発癌部門に所属され原爆の平和利用のさががけとしてそのいまわしい悲劇を二度と繰返す事のない様にと世界平和を心から願いつつ、「原子爆弾の放射線と、人体における癌誘発」を主題とする研究に余念がないとの事。今現在の北高の緑も街行く人の幸せな毎日も、その蔭にあって放射線に取り組んでおられる人々があつてこそ、又何に不自由のない健康な日常生活も、その放射線の平和利用を叫び、特に「癌」とのかかわりを追いつける人々があつてこそ保たれていると言つても過言ではないでしょう。よりよい成果と、今後この活躍を祈ります。

# 輝かしい各部の活躍

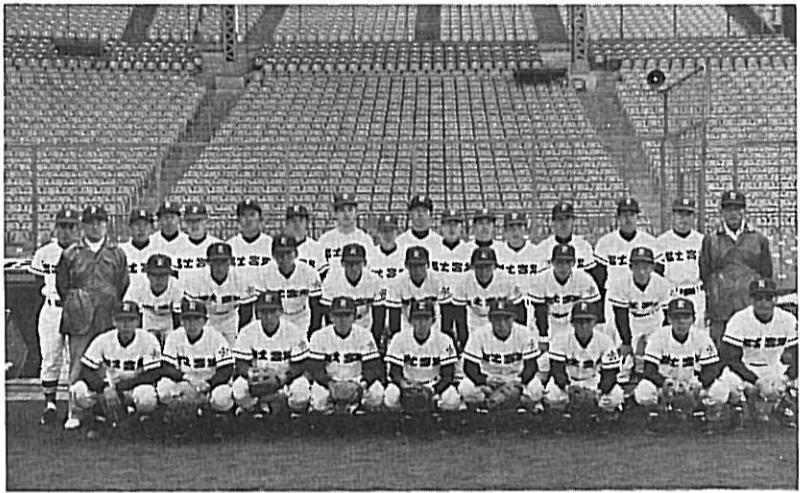
## 甲子園にひろがる校旗

### 野球部十四年ぶりの快挙

東部大会が二位、県大会が二位。そして中部大会で開成を12対7。中京商を6対1。そして決勝戦で静高を9対8逆転サヨナラ勝ちで破り見事優勝をなした。北高野球部は二月一日付で第五十二回選抜高等学校野球大会に出場がきまった。実に母校十四年ぶり、二度目の快挙である。そしてその瞬間から選手たちの練習とそれを盛り上げる同窓会、OB会、PTAを含めた後援会の熱い力が物心両面にわたって展開された。

OBの中より、菅原、遠藤、山下、清水、山崎、望月の各氏は選手と一緒に乗り込み、翌二十三日よりの練習にコーチとして力を貸し、同じく内山、篠原の両氏も涉外として舞台作りに駆け廻った。そして地元では精力的な資金集めに今村会長をはじめとする各氏が東奔西走、いよいよ開幕を待つのみとなった。一方当の選手達は甲子園の初練習の折も別にあがった様子もなく、何本かスタンドに打ち込み「思ったより狭い感じ」と頼もしいかぎりだが本番が近づくにつれ体調の崩れが目立ち七人が風邪を引くというアクシデントに見舞われた。そして入場式「足がふるえました」といつわらざる選手の言葉にある様に甲子園独特のふん囲気に少なからず圧倒された事は事実である。

三月二十八日。いよいよ第一戦である。まだ明けやらぬ東名高速道路を八十台余の応援バスが西へひた走った。大いなる期待と興奮



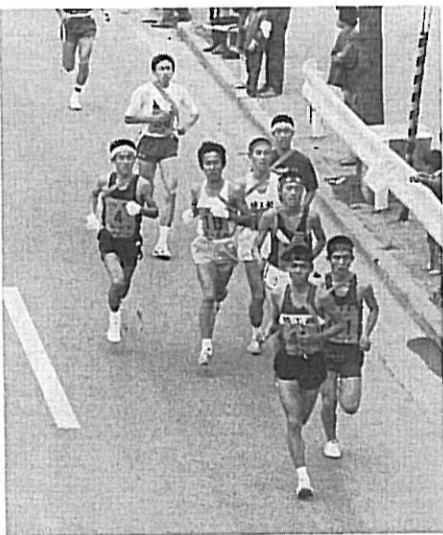
舞うテープ、その中で響く北高の校歌だ。ひらめく北高の校旗だ。この瞬間誰れもが思った「俺達は北高生として誇りを」と。今迄なれなかった快挙に酔いながら、早くも第二戦の準備にかかる。雨の為浜名湖からUターンしたバス群の処理等々、裏方の苦労は続く。そして第二戦バス8台(学校側バスをのぞく)とあまりの少なさに少し不安気だった応援団も新幹線組が多かった為にギッシリ埋り大いに意気が上った。時に四月二日。対戦相手は強豪高知商業である。健児の意気を見よやであったが、結果は7対0で完勝。おどろく上る応援席

「杉本投手はストリートにも力があって、出来はよかったんだが何んとして四回の失策による大量失点でリズムが狂い球がうわずってしまった。それにしても高知は集中力があってた

### 三年連続全国大会出場 陸上競技も頑張る

野球部の甲子園出場の際にかくれてしまった型だが陸上競技、特に駅伝の活躍はめざましいものがあり、この処三年連続、しかもすでに五年も全国大会に出場している事はあまり知られていない。

地味ではあるが大いに賞賛すべき事であり、正に快挙である。その結果は  
昭和35年11回大会 17位  
昭和48年24回大会 21位  
昭和52年28回大会 6位  
昭和53年29回大会 10位  
昭和54年30回大会 17位  
と参加56校に互しての大健闘である。



### バドミントン部も 全国大会へ

記録的にみても昨年の場合、県大会二時間十六分台、東海大会二時間十六分台、そして本番の全国大会では二時間四十分一秒の好タイム、しかも第三走者にタスキが渡される頃より雨が降り出し、第四走者の時は激しくなる悪コンディションの中で活躍だっただけにその評価は大きい。そして選手の活躍もさる事ながら応援部吹奏楽部生徒父兄OBら二百名にのぼる応援団の声援とそれをまとめた薩の力である後援会長大石清一氏(九回卒業富士信用金庫北支店長)をはじめとする後援会の活動も見逃す事は出来ない。

- 三月二十四・二十五の両日、栃木県真岡市で開かれた全国大会に出場したバドミントン部は見事ベスト8入りを果たし、ここでも北高強しと大いに気をはいた。
- ◆新人戦(団体)
  - 東部大会II優勝
  - 県大会II優勝
  - 東海四県II三位
- ◆55年度インターハイ
  - 個人(S)優勝(渡辺・天野)
  - 個人(W)優勝(渡辺・天野)
  - 個人(S)優勝 渡辺
  - 個人(W)優勝 渡辺
  - 二位 天野
  - 三位 河野

**高尾製紙株式会社**  
取締役社長 大石吉定 (第4回卒)  
本社工場 富士市今泉511-1 ☎(0545) 52-1635  
高原工場 富士宮市山本200-1 ☎(0544) 26-8128

紙パルプ機械・産業機械  
株式会社 **小林製作所**  
取締役社長 小林省吾 (第9回卒)  
本社 富士市水戸島2丁目1番1号 ☎(0545)61-2400(代)  
東京営業所 東京都中央区京橋3丁目7番4号(近代ビル) ☎(03)567-3201(代)

木材・新建材・住宅関連商品総合センター  
**株式会社 マルダイ**  
代表取締役 深沢一元 (県立第1回卒)  
富士市入山瀬592-1 ☎(0545) 71-2251(代)

トイレットペーパー・ティッシュ製造販売  
**静岡製紙工業株式会社**  
専務取締役 菅原務 (第3回卒)  
富士宮市浅間町4番12号 ☎(0544) 26-3106(代)

# 相撲部強し



ここにも伝統の強さを発揮する相撲部の活躍がある。同部出身の力士である序二段の「立富士」が優勝決定戦で敗れたものの七戦全勝という好成績をのこした事もあり負けてはいられず各大会で目立った活躍ぶりをしてきている。

◆六月十日  
県高校総合体育大会 (焼津水産高校)  
団体戦 優勝

◆六月二十四日  
東海四県総合体育大会 (三島高校)  
団体戦 三位

◆八月二日・四日  
全国高校総合体育大会 (和歌山)  
団体戦 ベスト三十二位

◆十月十五日・十八日  
国民体育大会 (宮崎)  
団体戦 予選リーグ敗退

◆十一月四日  
県新人戦 (沼津学園)  
団体戦 優勝

◆一月五日  
全国高校新人大会 (高知)  
団体戦 三位

◆五月二十五日  
全国高校相撲金沢大会  
個人戦 三位

◆六月十日  
県高校総合体育大会 (焼津水産高校)  
団体戦 優勝

◆六月二十四日  
東海四県総合体育大会 (三島高校)  
団体戦 三位

◆八月二日・四日  
全国高校総合体育大会 (和歌山)  
団体戦 ベスト三十二位

◆十月十五日・十八日  
国民体育大会 (宮崎)  
団体戦 予選リーグ敗退

◆十一月四日  
県新人戦 (沼津学園)  
団体戦 優勝

◆一月五日  
全国高校新人大会 (高知)  
団体戦 三位

◆五月二十五日  
全国高校相撲金沢大会  
個人戦 三位

た事がなかったが、きて実際目の前で見るのとびっくりする。正に肉弾戦である。汗にまみれ、砂にまみれ、それでもなお、立ち向う選手、パシッと言ふ音と共にとび散る汗、男の匂いがただよう一瞬だ。雨張れ相撲部/君達の青春は今そこにあるのだ。

## スケート部も

温暖の地静岡岡県と言ふ氷のないハンドスケートをのりこえてスケート部も活躍をし、各大会で好成績を挙げてついに全国大会出場をした。まずインターハイは北海道の釧路。続いて国体は苫小牧。それぞれ善戦し北高の名をあげた事に拍手を送りたい。

先輩諸氏の時には存在しなかったクラブだけになじみは薄い感じがしないでもないが、ここにも北高ありと気をはいている。

昭和五十四年度記録  
インターハイ県予選  
総合二位  
五百米 山梨省造 三位  
滝 和代 二位  
千五百米 山梨省造 三位  
千五百米 伊藤陸男 三位  
五千米 伊藤清文 六位  
一万千米 伊藤陸男 二位  
阪口清文 三位

## 【柔道部】

- 54年度 個人戦、柴田ベスト16まで進出
- 4月 スポーツ祭 (東部) 第三位
- 5月 インターハイ 東部 (体重別)
  - 軽量級 三位 清 一也
  - 五位 渡井 富之
  - 中量級 一位 赤池幸之介
  - 二位 宇佐美好英
  - 四位 大島 重男
- 重量級 一位 増田 智昭
- 重量級 一位 黄倉 英利
- 6月 インターハイ 東海四県総体予選 団体第三位
- 8月 高校選手権 第三位
- 10月 東部柔道祭 第二位
- 2月 新人東部大会 一部 二位
- 8月 東部柔道祭 第二位
- 10月 新人東部大会 一部 二位
- 5月 県柔道祭 団体第三位
- 個人 (55キロ以下) 二位 山田 郁夫
- 6月 インターハイ 県予選 (体重別) 中量級 二位 大島 重男

## 【庭球部】

- 54年度 個人戦、柴田ベスト16まで進出
- 5月 インターハイ県大会 個人戦、柴田ベスト16まで進出
- 54年度 団体優勝
- ◆国体東部予選 優勝 田村崇富美組
- 田村 石川 英樹組
- 三位 田村崇富美組
- 石川 英樹組
- ◆国体県予選 個人優勝
- 田村崇富美組
- 石川 英樹組
- 三位 田村崇富美組
- 石川 英樹組
- ◆新人戦東部大会 団体優勝
- 田村 石川 黒崎
- 西村 井出 望野
- 個人優勝 田村崇富美組
- 石川 英樹組
- 54年11月 新人戦県大会 第三位
- 55年5月 個人戦男子4名

## 【弓道部】

- 54年度 個人戦、柴田ベスト16まで進出
- 54年度 団体優勝
- 田村 石川 黒崎 西村
- 深沢 梶田 井出 深沢
- 個人優勝
- 田村崇富美組
- 石川 英樹組
- 三位 井出 厚組
- 深沢 厚組
- ◆国体東部予選 団体優勝
- 田村 石川 黒崎 西村
- 深沢 梶田 井出 深沢
- 個人優勝
- 田村崇富美組
- 石川 英樹組
- 三位 井出 厚組
- 深沢 厚組
- ◆新人戦東部大会 団体優勝
- 田村 石川 黒崎
- 西村 井出 望野
- 個人優勝 田村崇富美組
- 石川 英樹組
- 54年11月 新人戦県大会 第三位
- 55年5月 個人戦男子4名

## 【弓道部】

- 54年度 個人戦、柴田ベスト16まで進出
- 54年度 団体優勝
- 田村 石川 黒崎 西村
- 深沢 梶田 井出 深沢
- 個人優勝
- 田村崇富美組
- 石川 英樹組
- 三位 井出 厚組
- 深沢 厚組
- ◆新人戦東部大会 団体優勝
- 田村 石川 黒崎
- 西村 井出 望野
- 個人優勝 田村崇富美組
- 石川 英樹組
- 54年11月 新人戦県大会 第三位
- 55年5月 個人戦男子4名

## 【就職状況一覽表】

【金融・証券】	銀行 3	信用 2	証券 1	貸付 1	保険 1	その他 2
【製造】	繊維 1	機械 1	金属 1	窯業 1	窯業 1	窯業 1
【販売・サービス・その他】	飲食 1	流通 1	運輸 1	運輸 1	運輸 1	運輸 1
【公務・公社】	国家公務員 1	地方公務員 1	警察 1	消防 1	消防 1	消防 1

家庭紙の総合メーカー

## 丸富製紙株式会社

取締役社長 佐野 廣彦 (第8回卒)

富士市天間686番地 電話(0545)71-3165代

確かな家づくりに徹して15年……

## 見和住宅

代表取締役 蛭川 彌 (第4回卒)

本社/富士市永田25-17 電話(0545)53-6011

ルーフィング原紙抄造

## 花園製紙株式会社

取締役 菊池 千秋 (第1回卒)

富士市入山瀬201番地 電話(0545)71-3476代

白チリ紙・トイレットペーパー製造

## 株式会社 マスコー 富士宮製紙工場

専務取締役 増田 悦男 (第7回卒)

工場長 増田 悦男 (第7回卒)

富士宮市浅間町14-12 電話(0544)27-0251

# 同窓会 支部だより

何処の学校のOB会でも、そうであるが、同窓会のまとめで大変なものはない。社会に出ればそれぞれが何にかと課せられた役目があり、直接利害関係の少ない同窓会等はいよいよおろそかになりがちである。日和見主義とときめつけてはいけない。だるうが出来るだけ波風の立たない平穩無事を祈るのもごくあたり前である。それなのに、うっかり顔をみよと余分な仕事か廻って来るばかりか、為を思つて熱心に動く日本人の悪い癖で、好きだな

## 関東支部

支部長 杉沢和一

関東北嶺会も是年から六年を経過し、積極的な会費に支えられ益々その充実を拡大、結束して参りました。二月十日には「関東北嶺会だより」創刊号の発行が出来ました。関係各位に対し衷心より厚くお礼申し上げます。初刊号ですので事業計画の一端と体質的な紹介、それに学校の大きな行事を取り上げましたが、次号から広く同窓生の職域に進出しその映像、人生観等も皆様に紹介する事が出来ると思ひます。

次に恒例の行事日程等をお知らせします。

①故郷月軍四郎先生の墓参は七月十三日(日曜日)午前十時青山葬祭場正門に集合の上行います。

府中市宮西町四丁目13-2  
関東北嶺会事務局杉沢和一  
電話0423(66)8313  
田代区大森北三丁目13-2  
幹事長 赤池 重信  
電話03(764)5279

## 富士宮信用金庫

地元の金融機関である富士宮信用金庫は広くその利用者によりサービスを提供し、モットーの姿勢で各支店共評判がよい、そしてここにも卒業生が数多く活躍を続けている。

現在の数は八十三名。本部の総務課長、佐野靖氏(第八回卒)をはじめとする同窓生の中で店長、課長クラスが八名、代理クラスが十一名と主要ポストで責任ある毎日を送っている。現在支部組織は無いが、横の連絡は非常にスムーズであって組織化をしなくても

朝鮮事変が戦後あえいでいた日本経済に、いきぶきを与えた昭和26年、工業第一回卒業生の同級会が富士宮市内の中京食堂で開かれた。昭和17年12月卒業以来(当時戦時中で3ヶ月早く繰上げ卒業した)戦中戦後それぞれ思いもよらぬ境遇を背おいつつ一夜友情を温め合った。恐らくこれが第一回目のクラス会であったと思う。

その後地元の小泉新三、内藤昇次両氏の尽力で30年代は数年おき、40年代に入ると、地元富士宮、富士及び静岡地区が、毎年当番

## 白赤会(工業一期)

井出元一

制となり、開催地を夫々変えて、毎年開かれるようになった。40年後半になると、各々の社会的地位も進み、多忙という理由もあつて、開催期を二年毎という事にして現在に至っている。

尚これとは別に地元市内在住者のみの「つどい」を41年頃から、年に一、二回開いているのがこの会の特色である。

さてこの名称であるが、名付親は佐山先生で、40年初頭頃つけられたと記憶している。

## 北嶺会 の動き

- 54.6.11 三役会開催、総会の件を協議
- 54.6.17 54年度総会を富士宮魚勝にて開催、来賓として吉田、新井、温泉の諸先生を招き、特別ゲスト三回卒、東芝の遠藤康夫氏の「プラント建設を通じて体験したソ連の国民性」という講演を聞き、マスコミに乗り込まない珍しい話に感銘を受けた。
- 54.7.14 11校OBの先生八名と三五五名による懇談金を牧野副会長宅で開催。学校内外の諸問題について意見交換、今後も定期的に開催する事を申し合はる。
- 54.8.26 関東北嶺会第五回大会に出席。新井、温泉、塩川、藤原諸先生と斎藤前会長、今村、田中両氏にて東京上野池の端文化センターで開催の大会に出席。途中恒例の望月軍四郎先生の墓参を行い会務報告を行う。
- 54.9.15 北嶺祭に出席
- 54.11.5 北嶺祭の甲子園選抜内定に伴う関係者会議開催、今村、森本高山、佐野康の各氏出席。
- 54.12.17 甲子園出場後援会結成。規約制定、常任委員会々員決定。
- 55.1.12 北嶺会幹事会開催(常盤区民館)
- 55.1.21 甲子園出場後援会常任委員会開催。
- 55.2.1 選抜正式決定。後援会常任委員会開催委員を委嘱、募集活動開始を依頼する。
- 55.2.25 後援会三役会。壮行会等の行事予定につき協議。
- 55.2.29 北嶺会入会式。今村、菊池出席。
- 55.3.1 北高卒業式。今村出席。
- 55.3.13 野球後援会常任委員会開催。
- 55.3.21 選手壮行会。食会開催。
- 55.5.8 北嶺会三役会。55年度総会及北嶺会だより発行の件協議。
- 55.5.12 北嶺会だより編集協議開催。

### 【進学状況一覧表】

大学名	人数	大学名	人数	大学名	人数
国立大学	24	千葉工業大学	7	大分大学	1
北海道大学	1	千叶商科大学	15	松本大学	11
北前山形	2	青亜細学院	1	日本法政	16
福島城	1	亜美学院	3	星武蔵	1
茨城宮	1	工学士	2	武蔵工業	4
宇都馬	1	国士	5	武蔵明立	6
群馬立	1	駒沢工業	2	立早稲田	2
千横浜	1	池沼	16	立早稲田	6
新潟山	1	沼和	3	早稲田	1
信州	4	上成	1	徳川	1
静岡岡	2	専修	1	東学院	20
重	1	産能	11	相模浜	4
計	24	創大	1	常北	1
公立大学	1	高千穂	14	名古屋	1
高崎経済	1	拓東	16	京都	1
計	1	帝京	2	同志	1
私立大学	5	東京	8	花	1
国際商科	2	東京	8	大阪	1
城西協	4	東京	9	関西	3
文教	1	東京	2	甲	2
徳	1	東京	1	計	273



### 編集後記

この第6号は当初の計画では、甲子園出場特集号でゆこうかという考えであった。ところが考えてみると全国大会に出場して、立派な成績を挙げているスポーツ関係は他にも数多くあるわけで、そのバランスを考えた編集にした。

第一頁の人物往来であるが、従来は事業家関係を主として、取り上げていたが今回はこの趣を変えて学会(と)については大げさな方面で活躍の方々を焦点を向けたことにした。

北嶺会だよりも、回を重ねるごとに、何か一つのテーマが定まってきたような気がする。定着は良い面もあるが、反面マンネリ化という悪い面もある。新しい企画がほしい、ご意見をどうぞ御聞かせ下さい。

北嶺会だよりは毎年五千部程度印刷されている。卒業生が今年で一人を越えたわけだから、決して多い発行部数ではない。ところが卒業生の中に、この新聞を知らない人が結構ある。皆んなの新聞に育てるために、まだまだやるべき事があるような気がする。

毎号のことだが、いつも編集計画について、手際よいさばきを見せる川島明氏、緑の下でコッココ母枝の諸資料を整理して出してくる田中清、宮川雄二氏及び広告とりに誠実に動いてくれる菊池千秋氏等の方々によって、本号の発行が出来た事を付記したい。(井出)